

若神組十三日講だより

若神組十三日講
講長 藤井 成正

こんにちは！自然は四季折々の姿を見せながら、悠久の歴史をくりかえしています。
一方で「動かざること山のごとし」のことわざ……近年は大地の胎動も感じるが多くなっています。… それでは、前号以降の「抜粋スポット版」のご紹介です。

1.第5回講員研修旅行

本願寺金沢別院（西別院）

親鸞聖人が越後へご流罪なられた道筋を、本願寺第三代覚如上人はご巡行になられました。

その折に一字の草庵をしつらえて本源寺(延元4年・1339 開創)となづけられ、第二代如信上人の十三回忌をお勤めになったことがはじまり。



十三日講報陸旅行 2024年9月12日 場所 本願寺金沢別院



○加賀藩・長町武家屋敷
豪壮さと品格

○尾山神社（明治8年の建築。前田利家の神霊を祀る）

第1回
布橋灌頂会他

第2回
吉崎御坊他

第3回
勝興寺他



第4回
布橋灌頂会他



第5回
令和6年
9月12日（木）
参加：42名

2.年間活動のスタンス

○広報とコミュニケーションのスタンス

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
総会資料		○											同行者名簿含む
十三日講だより			3.13						9.13				年間2回
豆知識・アラカルト		お初講	3月講		5月講	6月講							終い講 本山講(資料配布)
本願寺ホームページ			○						○				HP更新月
講員研修旅行							←—————●—————→					年間計画に基づく	
グループ茶話会													適宜実施

3.親鸞聖人を語る夕べ

令和6年11月25日(月)

西本願寺高岡会館報恩講 ご講師 巢山 一哉さま
「恵信尼文書から見る親鸞聖人と恵信尼公」(講長、中嶋)

4.お内仏報恩講法要

令和6年11月29日(金)～30日(土)

本願寺布教使：増山 孝琢さま (講長、中嶋)

5.もち米進納

令和6年12月6日(金)～7日(土)

本願寺：講長、北般若地区 2名 (高岡教区29名)

6.令和7年 総会

令和7年2月13日(木) 光福寺(14時～)

世のなか 安穩なれ
仏法 ひろまれ

7.報恩講法要(井波団体参拝)

令和7年2月14日(金) 10時

(内山節『「里」という思想』)

二十世紀とは、人々が広い世界のなかで生きようとした時代であった。

狭い世界で生きることを恥と感ずる時代といってもよい。だから多くの人々は村や町を捨てて都市に出た。さらに都市を捨てて、世界に出ようとする者もいた。

といっても、最近の歴史社会学が明らかにしているように、近代以前の世界においても、結構人々は共同体のなかに閉じこもっていたわけではなく、広い世界との結びつきをもっていたのである。

だが当時の人々にとっては、どれほど広い世界で生きていたとしても、自分の帰る場所は、共同体や自分の技が生かせる世界にあった。つまり、近代になって変わったのは、このような関係である。近代人たちは、自分の帰る等身大の世界を捨てた。それは過去が受け継がれていく世界を捨てることでもあった。私は、「人間には、自分の存在を介して受け継げる歴史の空間的範囲」というものがあるような気がする。だから、その「範囲」であるローカルな世界を克服対象にしたとき、過去を受け継げなくなり、すべてが変わるだけの世界に巻き込まれていった。

その結果、**生きている過去が消え、歴史は単なる過去の出来事、過去の知識**になっていった。

二十世紀の社会は、歴史とは何かという感覚自体を、知らないうちに、変化させていたのである。……

○高度成長からバブル期にかけて

20世紀マネー資本主義の台頭の中で、人々は信仰共同体の意義を見失い、個人単位で功利と合理を追求するようになりました。**土徳の社会から、損得の社会に急激に転換が進み**、個人の富は利回りのよい都会に吸い上げられて地方の衰退をもたらし、都会に集中したお金が濁流となって地域経済を押し流し、金が国際的な過剰流動を引き起こし、**やがてグローバル・マネーの暴流となって地域経済を押し戻した後、地域には共同体のかけらも残らなかったのです**。それは単に好景気・不景気の問題でなく、いったいどのような社会的破壊が起こったのか、それが今後にどのような影響を、どれくらいの長さでもたらすのか、といった基本的な検証を行うには、国際社会よりも、むしろ地域社会の足元に目を向けるべきです。

時代はすでにポストモダンの中にあります。でもあの日進月歩のめまぐるしい近代よりも新しい時代とは、どんなに想像を絶した世界なののでしょうか。私たちのように、パソコンもいじれない手合いは、たちまち原始人扱いにされてしまうのでしょうか。

どうやら、その心配はいらなさそうです。私たちは進化論的な歴史観からそろそろ目を醒まし、20世紀に私たちがぶっ壊してきたものを修繕すべき静かな時代がやってきたようです。パーティは終わったのです。

でも21世紀の前半は、ここ数世紀の人類史でもっとも意味のある歩みとなるかもしれません。

内山節流に言えば、等身大の世界を取り戻して、歴史を受け継ぐ心の準備をする期間なのです。

事務局より

HP も是非ご覧ください。

